



いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、どうすればいいのでしょうか？

趣味や特技を活かした活動やつどいの場を充実させて、笑顔があふれる地域、お互いさまの思いやりと支えあいの仕組みを地域の皆さんと一緒に考えていきます!!

大和郡山市社会福祉協議会では、「地域の課題解決力を育む地区社協づくり」を目指して、地区社協と協働で、課題解決サイクル「地区社協 大和郡山モデル」の構築に向けて取り組んでいます。

- ①住民同士がつながりを持ち、生活・福祉課題に気づく
(発見する)
- ②住民参加による生活・福祉課題を共有、解決する
- ③生活・福祉課題を共有し、新たな活動を生み出す

【地区社協 大和郡山モデル】



防災講座



令和6年3月23日(土)、片桐地区公民館にて総務部会・安全安心のまちづくり部会主催の「防災講座」が開催されました。

はじめに、市民安全課により、災害を乗り越えるためには公助だけではなく、地域の助け合いによる「共助」が不可欠であること、避難所運営についても自治会を中心とした地域住民の力が必要であることなどのお話がありました。

1月1日、石川県能登地方において最大震度7の地震に見舞われ、甚大な被害が発生しました。2月29日現在、今なお1万人以上が避難所での生活を余儀なくされています。能登半島地震においても課題となっているトイレ問題についても、避難所で活用されるトイレやパーテーションなどの紹介をしていただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。

いつ起こるかわからない地震災害は決して他人事ではなく、日頃から災害への備えを行っておくことが大切です。災害に強い地域をつくっていくためには、平常時から住民同士のつながり・助けあいなどの地域づくりが大切です。住民一人ひとりが地域に関心を持ち、声を掛け合い、顔の見える関係づくりができる片桐地区を目指して、防災活動だけでなく、様々な取り組みを行って行きます。ぜひ皆さんも一度参加してください。



高齢者の移動支援について



片桐地区では、生活改善部会・保健衛生部会では、交通の不便さ、運転免許の返納などにより外出がしづらい高齢者を対象にした住民同士の助けあい活動(ボランティア活動)による移動支援について、令和6年度より話し合いを始めます。

大和郡山市では、すでに令和3年8月より矢田地区で「矢田おでかけGO」が、続いて令和5年10月より筒井地区で「はつらつ じゅんけい号」の運行が開始されています。

どちらの地区でも、「車中のおしゃべりや買い物が楽しい」「億劫だった外出もできるようになった」と好評です。また、運転ボランティアからも、「地域の役にたつことができ、やりがいを感じる」「地域の人と話ができて、知り合いが増えた」という声が挙がっています。単に移動を支援するだけではなく、地域のつながりづくり、住民同士の見守りなどにつながり、支え合いの意識が広がっています。

片桐地区でも、地域の各種団体や住民の皆さんの協力を得て、アンケート調査などに取り組み、片桐地区に合った移動支援を考えていきたいと思えます。

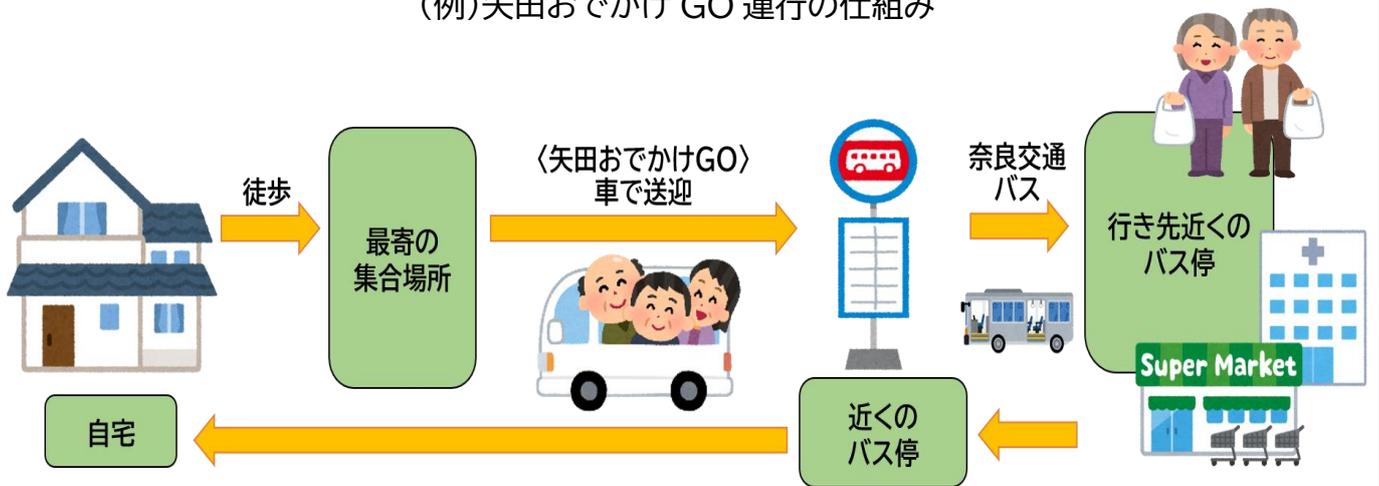


矢田おでかけ GO



はつらつ じゅんけい号

(例)矢田おでかけ GO 運行の仕組み



【地区社協ってなに?】

市内には8つの地区社会福祉協議会(略して地区社協)があり、地域住民をはじめ、自治会、民生・児童委員、老人会、PTAなど、各種団体やボランティアらが主体となって、住民一人ひとりの生活・福祉課題を地域の課題として受けとめ、「誰もが安心して暮らすことのできるまち

づくり」を推進する住民組織です。住民相互の支えあい活動を広げるため、講演会や世代間交流事業を開催したり、高齢者の見守り活動や健康づくりなどに取り組んだりしています。

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民同士のつながりや見守り、支えあいの仕組みが必要となります。

生活支援体制整備事業では、地域の皆様とともに身近な地域での支え合いの地域づくりを進めます。(大和郡山市委託事業)

【問合せ】大和郡山市社会福祉協議会 福祉課
大和郡山市植槻町3-8社会福祉会館内
電話 53-6531/FAX 55-0986